

中小企業あきた

- 1 官公需受注対策懇談会(県南会場・県北会場)を開催 1
- 2 農商工商品化研究開発事業を開催 2
- 3 平成26年度本会助成事業実施組合を募集 3

- 特別企画 先進事例を見る 4
- 会員組合探訪 5
- 景況レポート7月分 6
- 話題の広場
中央会事業より 7
- アラカルト 7
- 中小企業組合等支援施策情報 8
- 支援団体活動レポート 9
- 組合ティールーム 9
- インフォメーション 10

9
SEPTEMBER.2013



TOPICS 1 官公需受注対策懇談会 (県南会場・県北会場)を開催

7月22日(月)、横手市の「横手セントラルホテル」において、また、翌23日(火)には、北秋田市の「ニューグランドホテル松鶴」において、官公需受注を目指している会員組合を対象とした官公需受注対策懇談会を開催しました。

懇談会では、初めに、先進事例紹介として、全国官公需適格組合受注確保協議会の副会長で、相模原事務用品協同組合(神奈川県相模原市)元理事長の浦上裕史氏を講師に、「官公需適格組合制度を活用した受注拡大について」と題して、以下のような講演が行われました。



【講演する浦上裕史氏】

○組合設立の経緯について

本組合は「官公需」の受注を目的として、平成5年3月に設立されました。設立のきっかけは、当時、相模原市内に公立の小中学校が100校以上有り、個別にメーカー・問屋から仕入れ、納品することが交渉力の点で不利であったため、市内の中小企業が集まって組織化し、受注の確保に繋げようとしたことです。

○官公需適格組合証明の取得と効果について

協同組合の設立後、官公需適格組合証明を取得するには、受注実績が必要であったため、商工会議所等の仕事を受注しました。そして、組合設立から3年後の平成8年4月に官公需適格組合証明を取得しました。その後の受注実績については、相模原市の信頼を獲得し、現在も順調に推移しています。

○官公需共同受注事業を実施したことによる効果について

その結果として、受注の多くは随意契約となっています。また、組合では、日頃から地元業者として、行政庁への協力を惜しまないようにするとともに、地域の中小企業者として、地元深く浸透し、地元の発展に貢献するために努力しています。これにより、地域貢献に対する意識が高まり、仕事のモラルが向上しています。

○官公需受注を目指している組合の皆様へ

仕事を取るためには、自分なりに戦略を考え、相手が求めているものが何かを研究する必要があります。また、行政に対して、他の地域で実現できている受注事例等を自分達で調査し、地元の役所に提案していくことが重要です。



【横手会場】

講演の後、懇談が行われました。両会場で出された主な意見・要望等は以下のとおりです。

～主な意見・要望等～

【印刷業】

当組合では、中央会の協力等もあって、県の印刷物の分離発注を実現させることができた。今後も自らも調査・研究等の勉強をしつつ、中央会を活用しながら、行政機関からの発注を定着させ、業界を発展させていきたい。

【電気工業業】

取得要件が厳しいので、「準」官公需適格組合の制度があれば良いと思う。また、更新時の申請書類の簡素化を求めたい。今後は、仙北市でも街路灯のLED化が始まるので、当組合としてもエントリーしたい。

【石油小売業】

現在、県・市町村等を含む51団体と随意契約を締結しており、県の発注に関しては、本庁については、随意契約となっているが、各地域振興局については、随意契約となっていないため、現在、精力的に各地域振興局を回って要望活動を行っている。

【生コンクリート製造業】

当組合では、火力発電所で燃焼させた後の石炭灰(フライアッシュ)をコンクリートに混合した生コンクリートを生産・提供しており、アスファルトより、塩害への耐性もあることから、関係機関へのPRを引き続き行っていきたい。

行政へは、安売り競争にならないよう、適正な価格設定と品質の良い建物建築が可能となるような管理の方法をお願いしたい。



【北秋田会場】

TOPICS 2 農商工商品化研究開発事業を開催

8月8日(木)、秋田市のホテルメトロポリタン秋田において、「農商工商品化研究開発事業」における第1回研究会を開催しました。本会では、平成23年度及び24年度において農商工連携に取り組む人材の育成と人的ネットワークの構築等を促進すべく、基本的な知識から実践的なノウハウまで習得できる「農商工連携スクール」を開催してきました。本事業は、そのスクールの中で企画されたアイデアを形にし、新商品として販売することで地域の活性化に寄与することを目的に実施するものです。

第1回研究会では、株式会社パイロットフィッシュ代表取締役社長五日市知香氏を講師に迎え、2つの試作品に対して商品化に向けた課題の抽出や改良に向けたアドバイスをいただきました。

このうち、八峰町の株式会社鈴木水産と地元のパン屋が連携して開発した「ハタハタバーガー」(仮称)の試作品に対しては、「今のサイズだとパンズが多すぎて、多くの種類を少量食べたい消費者が集まるイベントでの販売では敬遠されることが予想される。実際の販売シーンをイメージしながら、食べやすさも考えて量目を調整したらどうか。」等のアドバイスがありました。

今後は、本会会員である食品製造業組合や小売業組合との連携も図りながら試作開発、テストマーケティング等を進め、平成26年2月には完成発表会を開催する予定となっています。

【今回の試作品】

試作品①八峰町の(株)鈴木水産が地元のパン屋と連携して開発するハタハタバーガー

試作品②仙北市のランドクリエイト(株)が(株)安藤醸造の味噌を利用して開発する紅マスの加工品



【試作品①ハタハタバーガー】



【試作品②紅マスの加工品】